



梨花女子大学校

西澤 真奈未
文教育学部言語文化学科
グローバル文化学環

留学に行く前の私は、韓国に行ったこともなく、韓国についてほとんど知らない、興味さえもほとんど持っていないという状況でした。そんな私が韓国を留学先として選んだのは、12月に留学が決定した後、すぐに3月から留学が出来るという梨花女子大学の条件に惹かれたからです。また、とりあえずどうしても留学したいという気持ちが強かった私にとって、留学受け入れ人数が多く、語学に関する制限も無かった韓国は、申し込みしやすかったというのが本音です。これ程消極的な気持ちで留学先を選ぶ人も珍しいかもしれませんが、今となっては申し訳ない気持ちにもなりますが、それでもずっと行きたいと思っていた留学に行けるという大きな期待を抱き、そして一方で言葉も文化も全く分からない未知の国で生活することへの大きな不安を抱いて始めた留学でした。

授業は月曜から金曜の午前中に留学生用の韓国語の授業が設けられており、私はレベル1から始めました。日本人3人、中国人3人、アメリカ人2人、ドイツ人2人、フィンランド人1人のクラスでした。レベル1は初級のコースであるのですが、私たちの先生は英語を使って授業を行っていたので、梨花女子大学への留学を考えている人は、レベル2以上の授業から始めるのが良いかと思います。韓国語のクラスメイトは、毎日一緒に勉強するので、その分絆も強く、授業外でも誕生日会などのイベントを行ったり、休日に一緒に出かけたりと、学校では最も長く一緒に過ごす友だちになると思います。留学を通して韓国のことを知れたことは勿論ですが、色々な国から来たクラスメイトと接し、彼らから母国や彼らの文化のことを色々教えてもらったことで、自分の世界を広げられたと思います。また、夏休みには付属の語学堂で10週間韓国語の勉強を行いました。夏休みは日本と同様に2カ月半あるので、時間の有効活用として語学堂を利用するのも良いと思います。

韓国語以外の授業は、英語で行われる授業と日本語の授業を取っていました。韓国語で行われる授業は理解が出来ないのでそうしていたのですが、英語で行われる授業には帰国子女の学生も多く、ついていくのも精一杯でした。韓国の授業は学生がとても積極的に発言し、それによって授業が進んでいきます。発言回数がダイレクトに成績に結び付く場合もあります。また、最低一回は発表を行わなければならないという授業も多いです。先生主導の日本の授業に慣れていたので、積極的に自分の考えを出す韓国人学生の姿に驚き、同時に自分もこういう姿勢を身につけなくてはと思わされ、刺激を受けました。



半年間の留学生活を通し、たくさんのことを得られました。まず、韓国についてほとんど何も知らなかった私が、韓国を大好きになって帰ってきました。留学前は報道などで繰り返される歴史問題や反日感情などの印象が強かったのですが、韓国に飛び込んで、内側から韓国を見られたことで、色々な角度から韓国のことを知って行くことが出来ました。そして、韓国人や世界中から来た留学生と接することで、自分の世界を広げられ、また、人と人とのつながりに対する考え方も変わりました。交換留学は半年から一年という時間が限られた中での生活です。どんなに仲が良くなっても、時間がきたら別れなければならないし、もしかしたら一生会うことがないという人もいるでしょう。そうした期限のある生活だからこそ、一回一回、一瞬一瞬の交流を大切にしなければならぬという姿勢を学ぶことが出来ました。韓国は協定校も多く、多くの学生が留学できる機会があると思うのですが、私が留学をした時には、韓国へ留学した学生は私を含めて2人だけでした。英語圏を希望する学生は多くいると思うのですが、韓国留学も英語圏に負けない程素晴らしい経験になると思います。これから、韓国留学をする学生がどんどん増えていくことに期待したいです。